

# 慈明院寺報九月号

## お彼岸の修行



秋のお彼岸は、夏のお盆が終わってすぐにやってくる。お彼岸にもお墓や仏壇に手を合わせる習慣がある。「お盆のすぐ後なのに、またご先祖様が帰ってこられるんですか？」と尋ねられたことがある。

お彼岸という名前の由来は、古代インドで使われたサンスクリット語という言葉の「波羅蜜（パーラミタ）」からきている。これは日本語に訳すと「到彼岸（彼岸に到る）」という意味である。私たちが生きている世界を此岸（こちらの岸）といい、仏様の住む悟りの世界を彼岸（あちらの岸）という。彼岸に到るとは悟りの岸に行くために、仏道修行に励む事を指す。この彼岸に行く修行を六波羅蜜と呼ぶ。『布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧』この六つの修行を行う事で、仏様のように穏やかで平和な生活を得る事ができるという。

仏教において他人に金銭・財物を施すことを「布施」と呼び、これが功德ある仏道修行のひとつとされている。しかし物や金銭以外にも「無財の七施」という布施があるとされている。

- ①眼施（やさしい眼差しでひとを見ること。目は口ほどに物を言う。）
- ②和顔悦色施（柔和な顔と喜びの顔色を施すこと。いつもニコニコ。）
- ③言辞施（思いやりの言葉を施すこと。愛の言葉ささやいてますか？）
- ④身施（労力を惜しまず、腕力や労働力で奉仕すること。）
- ⑤心施（細やかな心遣いによって施す布施。相手の気持ちを想うこと。）
- ⑥牀座施（寝床や座席を施すこと。毎日の掃除洗濯ありがとう。）
- ⑦房舎施（旅人などに宿舎を提供すること。お店のサービスでも感謝を。）

お彼岸にも帰ってこられる仏様もいらっしゃるかもしれない。彼岸を目指すのがお彼岸の修行なら、こちらからあちらの仏様に届くように、やさしい心を日々の行いの中で布施していきたいですね。暑さ寒さも彼岸まで。住職 合掌

猛烈な残暑で体調を崩されていませんか。

令和六年七月二十七日（お施餓鬼）灯籠供養を勤めました。今年は四人の僧侶にご助法頂き、無事に法会を行いました。灯籠供養をお申し込み頂いた皆様、あるいはお盆まいりでお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。



秋季彼岸・塔婆供養法会のご案内（別紙参照）



来る 令和五年 九月二十二日（日曜日）秋分の日

午前十一時より

どなたでも塔婆のお申し込み、当日のご参拝は出来ます。案内状をご参照頂き、宜しければお参り下さいませ。（昼食、大黒饅頭をお接待致します）

慈明院

〒八一一一三 福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL (〇九二) 八〇四四四七〇 FAX (〇九二) 八〇四四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇（五二八一）・七四九四